

テレビマガジン
創刊45周年
特別編集

講談社MOOK

本郷 猛

／ 仮面ライダー1号



改造人間

講談社の

講談社



改造人間となった後も、操れたオートバイテクニックを生かして変形銃(常用タイプ)のサイクロン号を縦横無忌に操り、ショッカー改造人間との戦闘や、逃走する戦闘目の追跡を行った。また、その運転技術は、仮面ライダーに劣らぬといわれても十分高いといえる。

オートレーサー



オートレーサーとして活動し、全日本モトクロス選手権を始めとする数々のグランプリで好成績をキープ。ヨーロッパレースへの出場及び、優勝を目標していた。

青年科学者



ショッカー改造人間の攻撃によって時には窮地に陥ることもあったが、敵が発生させる怪事件に次々と立ち向かい、悪の脅威に晒される善良な人々を守り抜いた。

改造手術



城北大学生化学研究室(第2話以降は城南大学生化学研究所)きつての秀才と呼ばれる青年科学者で、その知能指数は600。また、並外れた運動神経の持ち主でオートレーサーとしても超一流のテクニックを持っている。秘密結社ショッカーによって拉致され、改造手術を施されるが、脳改造寸前にアジトを脱出。正義の戦士「仮面ライダー」と名乗り、ショッカーとの闘いに命を懸けていく。

本郷猛

出演/藤岡弘(現・藤岡弘)

ショッカーの組織とその戦闘員に操られた本郷は、1話目から2話目にかけて、最高ランクの戦闘用サイボーグに改造される。

本郷は、その天才的な頭脳を生かしてショッカーの科学の秘密を探求。研究室(研究所)の同僚の協力を得て、生物兵器やDNAチオスの秘密に挑戦した。

仮面ライダー1号

出演/藤岡弘(現・藤岡弘)、中村文弥、岡田勇

ショッカーの戦闘用サイボーグ

本郷 猛が秘密結社ショッカーによって改造を施された姿で、バッタの機能を有する戦闘用サイボーグ。元々常人離れした体力・知力の持ち主である本郷が、改造によって人間の数十倍の腕力・破壊力・跳躍力を手に入れたことにより、悪の野望に唯一人で立ち向かっていくこととなった。また、それらのパワーは、同胞とも言えるショッカー改造人間との戦闘経験や特訓によって更に強化される。

Height/1.8m Weight/70kg

スタイルバリエーション

アクション用	アップ用
	
	

激しい格闘やトランポリンによるジャンプシーン、サイクロンの改造シーンなどに使用されたタイプで、マスクとクラッシャーがラテックス、Cアイは発泡スチロールで制作されている。のぞき穴もアクリル板ではなく、黒く薄い布が張られている。

第1話ではマスク、クラッシャー共にF自P製であったが、撮影中に外れるというトラブルを回避するため、第2話以降はクラッシャーのみラテックス製に変更された。また、スーツは奥まで制作されたツーピースで、腰の部分をファスナーで繋いでいる。

超能力

風車ダイナモ(タイフーン) Oシグナル

	
ベルトの中心部に埋められた風車の吸入口で、ライダーに変身する際に露出する。	腹部の超指向アンテナと連動した探知機。敵が100m以内に接近するとランプが点灯。

超聴覚器

	
常人の40倍の聴力を有し、4km四方の音を聞き分け、地中を移動する敵も探知できる。	腹の力だけで高さ15m以上の壁を乗り越えることができる。

Cアイ

	
キャットアイとも呼ばれる人工視覚で、赤外線を放射し、暗闇でも見通すことが可能。	48m70cmという驚異的な数値を測定。ライダーはこの力を使い、一瞬で敵に接近する。

弱点

	
風車ダイナモの回転をストップされ、厚さ1mmの壁で四方を囲んだ1mの範囲に閉じ込められると、戦闘力・身体能力・超能力を発揮しても、その力が分散されてしまうらしい。	

特訓

	
ショッカーが新たに制作した改造人間、トカゲロンの必殺シュートに打ち勝つため、高所から落下する岩石を繰り返す特訓を協力者の立花と行い、自身のキック力を強化した。	



仮面ライダー1号は、体内に取り入れた風力エネルギーを改造体内部に通すことによって、全身に秘めた凄まじいまでの戦闘力・身体能力・超能力を発揮する。また、戦闘(ファイティング)ポーズを取ることで、自身の意志を奮い立たせ、パワーを最大限まで引き上げることが可能である。





「3大超人の特集」。この時点で仮面ライダーの新人であるジャガーマン、フクロウ男、みみず男、ごきぶり男、カブトロンゴとの格闘写真、各怪人の超能力を紹介している。この後は、嵐とパロム・1の特集記事が続く。



脚本家の島田真之・作、画家の石原豪人・画によるオリジナルストーリー「ふたりのライダー」の第1回「トリカブトの大殺人計画の巻」。ストーリーはダブルライダー対トリカブト、イラストはムカデラス、ピラザウルスなどのショッカー怪人との対決で構成されている。



「走れ! とべ! 仮面ライダー」。改造サイクロン号のジャンプから記事が始まり、新怪人であるナマズギラーやハリネズラスの単体や格闘写真、これまでに仮面ライダー1号(新)が倒した怪人を紹介しているが、やや幼角的。



「走れ! とべ! 仮面ライダー」。改造サイクロン号のジャンプから記事が始まり、新怪人であるナマズギラーやハリネズラスの単体や格闘写真、これまでに仮面ライダー1号(新)が倒した怪人を紹介しているが、やや幼角的。

オリジナルストーリー「ふたりのライダー」の連載第2回「空とふ人人大しゅうげきの巻」。ギリーラやムササビードルが登場する。



「仮面ライダー・ショッカー怪人大百科」。原は石森プロ、中の怪人ページはリアルイラストで構成されている。こうもり男など8体の怪人を掲載。



1972年6月号



仮面ライダー1号、変身忍者嵐、超人パロム・1と、1972年の「テレビマガジン」を支える3大キャラクターが揃った。



「カッコいいぞ! ふたりのライダー」大判プロマイドで、九州・福岡での写真を使用。

1972年7月号



仮面ライダー、変身忍者嵐、超人パロム・1(3大超人)の特集号といっても良い内容で、多くのページが割かれている。



「仮面ライダー・変身忍者嵐・超人パロム・1ミニプロマイド」全56枚になる。

1971年11月に「少年マガジンコミックス(少年マガジンのおとうと雑誌)」として創刊(12月号)された「テレビマガジン」。ここでは、仮面ライダー1号(新)が掲載された1972年5月号~1973年2月号までの関連記事内容を、簡単ではあるが紹介していく。

テレビマガジン本誌「仮面ライダー」IN 1972年5月号~1973年2月号



パノラマイラスト企画「ふたりのライダー対全ショッカー」は、映画「仮面ライダー対ショッカー」をモチーフに画家の石原豪人が描いたもので、迫力満点の企画だった。ちなみに仮面ライダー1号は、既に(新)ライダーになっている。



「がんばれ! 新ライダー」は、仮面ライダー1号の変身ポーズや戦闘シーン、新怪人であるドクモン下、どくとがげ男、ギリーラ、うみへび男の超能力分析などを、4色と2色ページで紹介している。



1972年5月号



仮面ライダー1号(新)が登場した5月号から、巻頭プロマイドの多さや情報量など、「テレビマガジン」本誌にも徐々に変化が見え始める。



トカゲロンなどの初期怪人から、この時点での新怪人どくとがげ男までを掲載。

改造サイクロン号に乗った1号と、制作第53話のドクモン下戦の写真を使用。

1色記事の「仮面ライダー・ショッカー怪人大百科」。イラストを使用し、怪人の使命、基地、出身地、改造に使った動物などを紹介。

